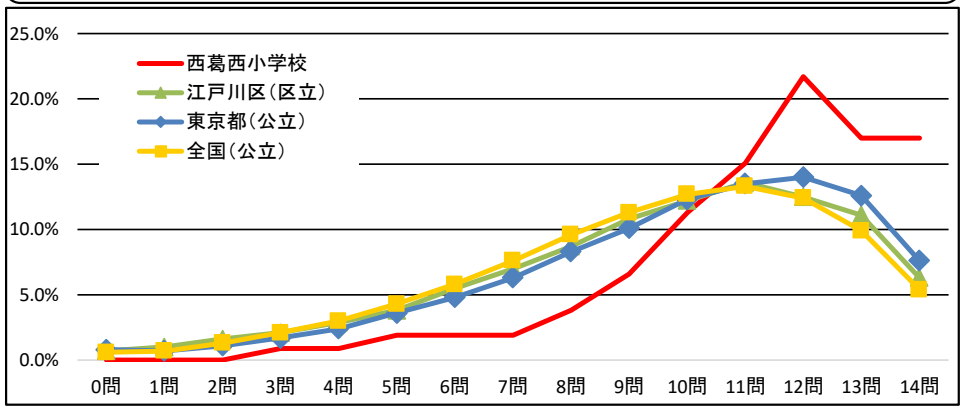
令和7年度全国学力・学習状況調査　結果分析表【国語】西葛西小学校

正　答　数　分　布

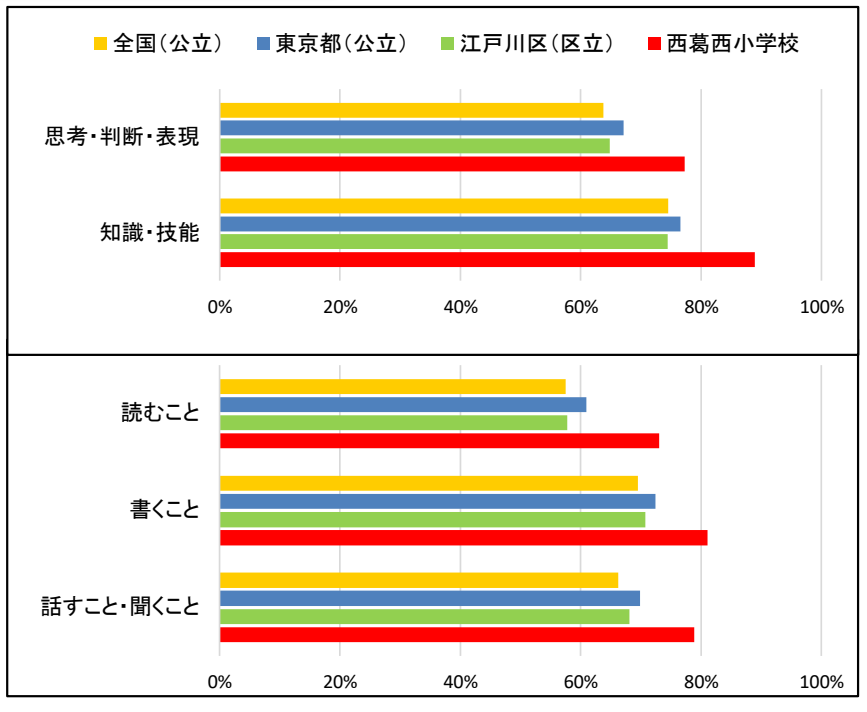
平均正答数
西葛西小学校：11.3問　　江戸川区（区立）：9.5問
東京都（公立）：9.8問　　全国（公立）：9.4問



【平均正答率の差】

西葛西小学校	81%
江戸川区（区立）	68%
東京都（公立）	70%
全国（公立）	66.8%
都との差（ポイント）	11.0

「領域別」の結果

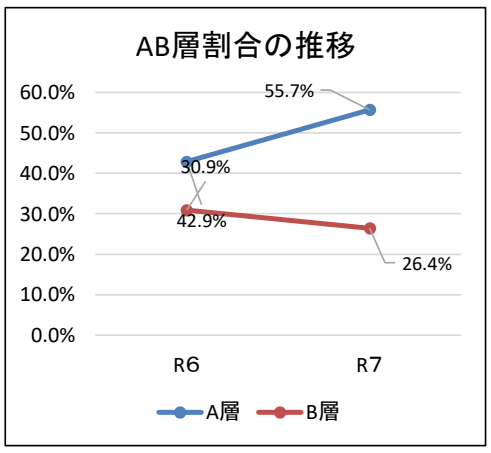


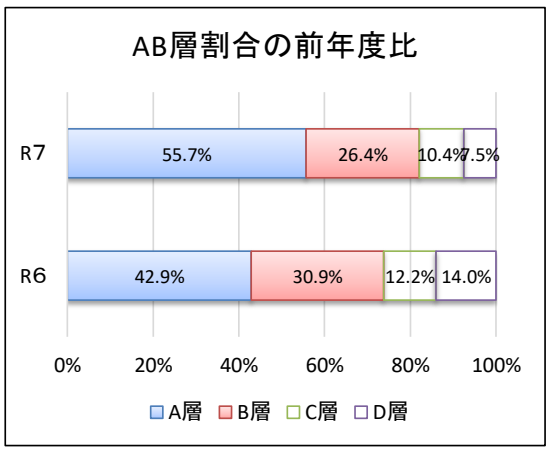
四　分　位　に　お　け　る　割　合　（　都　全　体　の　四　分　位　に　よ　る　）

上位 ◀――――――▶ 下位

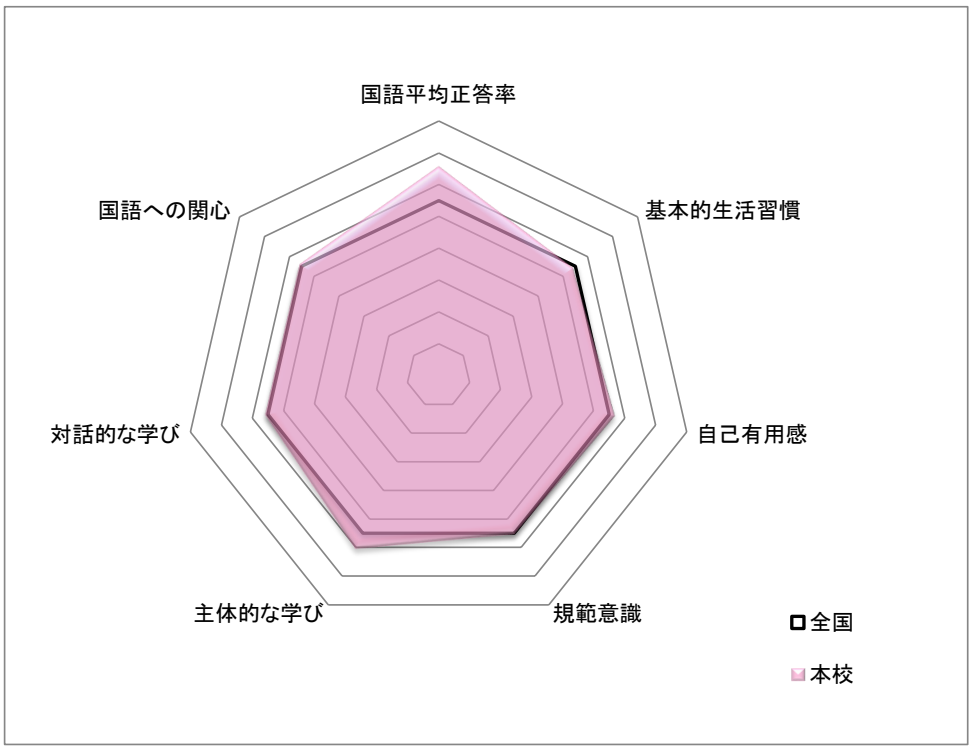
国　語	A層	B層	C層	D層
	12～14問	10～11問	8～9問	0～7問
西葛西小学校	55.7%	26.4%	10.4%	7.5%
江戸川区（区立）	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都（公立）	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国（公立）	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。





各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

このチャートは、「教科調査」（国語）と「児童質問調査」について、全国を母集団として本校の調査結果を表したものである。内側の太線は、全国平均を表している。赤色部分が本校の調査結果である。
本校の調査結果を見ると、教科の学力と児童の学習に関する内容がともに、概ね全国平均またはそれを上回りバランスがとれていることが分かる。特に国語の平均正答率が高い結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

国語科で培われる力は全ての教科に必要な基礎力が身に付いている。家庭学習の定着度をさらに高めるための保護者の周知や区立図書館との連携などに一層力をいれ、D層の減少に努める。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
A層群もB層群も全国平均や都平均を大きく上回り、基礎的学力が定着していると言える。また、前年度よりもAB層の割合が約10%増えた。
（1）「国語の勉強は好きですか」（2）「国語の授業の内容はよく分かりますか」は全国と比較すると（1）＋8%（2）＋4%と共に全国より上回っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

領域別に見ると、「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」の到達度が低い。また、「話すこと・聞くこと」に比べて「読むこと」の到達度が低い。今後、自分の考えを友達と共有したり、発表したりする活動を増やし考え表現する力を養いたい。音読実施時に正しく読む力を習得させることや、さらなる言葉の獲得を意識して指導にあたる。

・基礎学力の保障

国語の平均正答率が81%であり、東京都と比べると+11%、全国と比べると+14.2%と大幅に上回っている。このことから、本校の児童は、小学校で学ぶべき学習内容をほぼ身に付けていると考えられる。基礎学力をさらに定着させるため、日常的に音読をさせたり、漢字のミニテストを使用した反復学習を行ったりしていく。

・学習習慣の確立

「学びのスタンダード」に基づき、低学年から学習習慣・生活規律の確実な定着を図っている。児童一人ひとりが家庭と連携した計画的な学習サイクルを完全に確立できるよう毎授業での学びへの振り返りを徹底するとともに、授業では自らの考えを論理的に説明し、他者の意見を深く理解する活動を重視していく。

・AB層の育成

1年生から「読書科」の時間を活用して、読書活動の充実を図り、文学的文章に親しませる。また、教科書の内容から要旨、要約、要点を理解させ、説明的文章の読み取る力を育てるとともに、宿題や授業の中で、初見の文章を読み取る力を育てる。（4年生から～6年生は新聞記事を活用したワークシートに取り組む。）